

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	加藤 明久
主な担当科目	室内楽Ⅰ,室内楽Ⅱ,実技個人レッスン[器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ③,器楽実技Ⅰ①,器楽実技Ⅰ②,器楽実技Ⅰ③,器楽実技Ⅰ④,器楽実技Ⅱ③,器楽実技Ⅱ④]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	個人の実力に沿った課題や練習曲を与えることで就学意欲の向上に努める。楽器の扱い、リードのコントロール、舌の使い方の奥深さといった、指と唇、舌による操作の大切さ、重要性を指導する。将来、自らが何らかの形で楽器を指導する立場になることを自覚させ、音階や練習曲で何を学ぶのかを理解させながら、演奏の向上だけでなく、指導のしかたも学べるレッスンを行う。ソロだけでなく、合奏における奏法、合わせるテクニックの向上にも努める。
2022年の教育に関する自己評価	先生の体調不良により、他の門下から来た3人の学生を8回指導し、演奏技術が飛躍的に向上し、先生からも認められたことには満足している。同じく、他の門下から希望して自分の門下に来た学生の演奏意欲が増したことも同様。依然としてコロナ禍により学生の仕掛け(リードやマウスピース)を試奏できないのは、忸怩たる思い。リードの調整は重要な要素だけに、今後の課題でもある。
2022年のFD活動に関する自己評価	他の学内組織の先生方との意見交換の場として、または基礎ゼミでは授業の進め方など、積極的に情報を共有することができた。参加するだけでなく、集まっていた立場になることで、より効果的なFD活動が体験できることを学んだ。
授業改善のために取り入れた研修内容	やはり、多様性のある学生に対する対応のむずかしさを感じている。

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

水 5時限

担当教員

加藤 明久

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
演習	2～	前期	1	50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

演奏会実習Ⅱ④

弦管打演奏家Ⅱ

曜日時限

実技

担当教員

加藤 明久

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	20	0	80	0	

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅱコースの学生が学内外において豊富な演奏経験を積み演奏能力を高めることを目標としている。国内・国外のコンクール、演奏会等への積極的な参加を推奨しており、経験からさまざまな事柄を学び、成長することをめざす。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活躍するために必要な能力が総合的に身に付く。ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者として、より高度な演奏技術、感性豊かな表現能力、アンサンブル能力、コミュニケーション能力、音楽的判断力等が身に付く。

授業展開と内容

第1回	ガイダンスならびに前期計画の立案、選曲
第2回	演奏会の開催日程を調整する
第3回	プログラムの確定
第4回	出演者への依頼と確定
第5回	出演者との打ち合わせ
第6回	演奏会広報について計画を立てる
第7回	演奏曲Aの楽曲研究（アナリーゼをする）
第8回	演奏曲Aの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第9回	演奏曲Bの楽曲研究（アナリーゼをする）
第10回	演奏曲Bの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第11回	演奏曲Cの楽曲研究（アナリーゼをする）
第12回	演奏曲Cの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第13回	演奏曲Dの楽曲研究（アナリーゼをする）
第14回	演奏曲Dの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第15回	前期のまとめ
第16回	ガイダンス、演奏会までの計画を見直し、改善する
第17回	演奏会で配付する印刷物の準備
第18回	演奏曲Eの楽曲研究（アナリーゼをする）
第19回	演奏曲Eの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第20回	演奏曲Fの楽曲研究（アナリーゼをする）
第21回	演奏曲Fの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第22回	演奏会当日に配付するプログラムの曲目解説をまとめる
第23回	演奏会の進行打ち合わせ
第24回	演奏曲Gの楽曲研究（アナリーゼをする）
第25回	演奏曲Gの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第26回	演奏曲Hの楽曲研究（アナリーゼをする）
第27回	演奏曲Hの楽曲研究（豊かな演奏表現を目指す）
第28回	出演者とのリハーサル
第29回	演奏会出演
第30回	年間のまとめ

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

水 5時限

担当教員

加藤 明久

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	2～	前期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	50	0	0	50	0
									100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。なお、グループ編成は学年を超えて自由に組んでよい。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

水 5時限

担当教員

加藤 明久

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験				授業内小テスト		
演習	2～	後期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				評価割合	50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

水 5時限

担当教員

加藤 明久

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
演習	2～	後期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	50	0	0	50	0
									100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏授業に与えられたパート譜を余裕をもって演奏出来るように、個人練習を事前に済ませておくこと。実技担当教員から演奏上のアドバイスを受けておくこと。楽曲のスコア・演奏録音CDやDVDなどを参考として、担当するパートが他のセクションや合奏体全体との関わり方を、事前にかつ自主的に研究して取り組むこと。

教科書・参考書

適宜配付する

科目名－クラス名

器楽 I ①**曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0
									100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ①**曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ①**曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

■履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	1～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	4～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	4～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	3	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	3	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅱ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	3	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ④」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅱ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	4～	通年	3	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ④」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3032 教員名：加藤明久

【音楽教養演習1】

1) 評価結果に対する所見

いろいろな分野の現場を見学することで、演奏や演技の表舞台だけでなく、多くの人によってひとつのパフォーマンスが成立していることを学んでいると実感します。

2) 要望への対応・改善方策

吹奏楽やオーケストラのホール練習やゲネプロを見学するので、その場で解説や説明がむずかしいのが悩ましいところではあります。ホールに入館する事前の解説を潤滑に行うよう留意します。

3) 今後の課題

水曜3限で行うことを最優先していますが、オーケストラの場合はなかなかその時間にホール練習を行うことがないので、どうしても週末になってしまいます。なるべく多くの機会を作り、生の吹奏楽、オーケストラの響きを体感してもらいたいと考えています。

以 上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3032 教員名：加藤明久

【卒業研究 音楽教養】

1) 評価結果に対する所見

どの学生も、音楽教養コースの集大成として卒業研究に取り組んでいることが日ごろの言動、行動から伝わってきます。このコースの特色が色濃く出ている結果と推測します。

2) 要望への対応・改善方策

演奏による卒業研究の学生を直接担当したことはありませんが、同じ楽器の学生にはアドバイスやヒントを与えています。

3) 今後の課題

充分かつ満足のいく発表が円滑に行えるように指導していきたいと考えています。

以 上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3032 教員名：加藤明久

【演奏とからだⅡ】

1) 評価結果に対する所見

アンケートに答えている学生たちは、とても熱心に講義に耳を傾けている学生たちと感じます。この授業は呼吸、金管楽器のアンブシュアなど内容がコアなために、興味のある回と、それほど興味がない回に分かれてしまう傾向があるようです。

2) 要望への対応・改善方策

アテンドの先生とはまさしく私のことで、呼吸の回るときに自分がレッスンのときに行っていることを付け加えてしまいました。その管楽器学生からは感謝されたことはよかったのですが、出しゃばったことをしてしまったことについては反省しております。授業を行う部屋が回によって異なることを知らなかったことも勉強不足でした。

3) 今後の課題

Teams を使って事前に部屋の周知をしっかりと行うことと、アテンドに徹することです。

以 上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3032 教員名：加藤明久

「音楽教養表現Ⅰ」

1) 評価結果に対する所見

回答数が6人と少ないので現状のすべてを把握できていないかもしれないが、オーケストラの実態や運営、どういうリハーサルがどれくらい行われているか、演奏会ができるまでの過程に関しては興味深く聴講してくれていると感じる。

2) 要望への対応・改善方策

特に要望は書かれていなかったが、オーケストラに関わるさまざまな仕事を、わかりやすく紹介していこうと思う。

3) 今後の課題

朝早い授業なので、学生が眠くならないように、最初から心を掴むような内容を考えていきたい。

以 上